

全国学力・学習調査の概要

国語

設問番号	学校の 平均正答率
①一	34.8
①二	69.6
①三	65.2
①四	30.4
②一	52.2
②二	87.0
②三	87.0
②四	26.1
③一	73.9
③二	95.7
③三	56.5
③四	30.4
④一	56.5
④二	34.8

概要

学習指導要領の内容「思考力、判断力、表現力等」の平均正答率は大阪府平均・全国平均を上回っている。中でも、「話すこと・聞くこと」は全国平均より10ポイント近く上回る結果となった。しかし、「知識及び技能」は大阪府平均・全国平均をやや下回ったので、言葉の特徴に関する知識を習得させる学習を続けていきたい。

特に成果が見られた問題例

3四 文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる問題。記述式解答。大阪府平均・全国平均がどちらも10ポイント台なのに対し、本校の正答率は30ポイント台と、15ポイント程度上回っていた。文章を適切に読み取り、自分の考えを書く力に成果が見られた。

特に課題が見られた問題例

1二 目的に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができるかどうかをみる問題。(美術展のちらしに会場図を載せる目的を説明したもの)本校の正答率は大阪府平均・全国平均と比較して10ポイント以上下回っている。学習した内容を、実生活と結び付けて考えていくことに課題が見られた。

数学

設問番号	学校の 平均正答率
①	52.2
②	82.6
③	65.2
④	65.2
⑤	39.1
⑥(1)	56.5
⑥(2)	30.4
⑥(3)	56.5
⑦(1)	78.3
⑦(2)	43.5
⑧(1)	78.3
⑧(2)	39.1
⑨(1)	52.2
⑨(2)	39.1
⑨(3)	43.5

概要

全国・大阪府と比べて正答率が7%程度高い結果となった。特に数と式、関数の領域については、12~13%高かった。この結果につながった理由として考えられることを3点あげると、①、習熟度別の授業を行い、生徒の状況に応じた対応が行いやすいということ。②、基本の計算プリントを授業の初め5分で行っているということ。③、自習ノートを提出する生徒が多い学年であること。があげられる。しかし、確率や最頻値の問題などのデータの活用の領域では全国や大阪府よりやや下回った。この領域の知識の定着が課題であると考え。

特に成果が見られた問題例

2の文字式や3の一次関数の問題では、全国と比べて30%正答率が高い結果となった。

特に課題が見られた問題例

7(2)の確率の問題では、全国よりも12%正答率が低く、唯一無回答率も高かった。

設問番号	学校の 平均正答率
Ⅰ(1)	69.6
Ⅰ(2)	52.2
Ⅰ(3)	43.5
Ⅰ(4)	56.5
Ⅰ(5)	65.2
Ⅰ(6)	95.7
Ⅲ(1)	52.2
Ⅲ(2)	100.0
Ⅵ(1)	60.9

概要

全国・大阪府と比べて正答率が最大 30% 高い結果となった。特に、身の回りの事物・現象から生じた疑問や見出した課題に対して、系統的に考え、分析することができていた。また、問題形式を問わず、すべての問題で無回答率が 0% であった。

一方で、スケッチに関する知識及び技能が求められる問題では、全国・大阪府の平均を下回っており、観察・実験器具の使い方などで知識・技能の定着が課題であると考え。今後は、より観察・実験器具に触れる機会を設け、操作など技能の定着に図っていきたい。

特に成果が見られた問題例

Ⅲ(2)の電気抵抗に関する問題では、正答率が 100% であった。また、記述問題を含むすべての問題において無回答率は 0% であった。

特に課題が見られた問題例

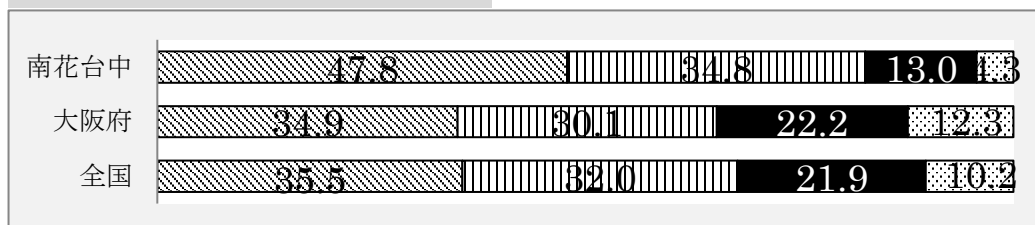
Ⅵ(1)のスケッチに関する問題では、唯一、正答率が全国・大阪府と比べて下回っていた。

※今年度、中学校理科において 1 人 1 台学習者用端末を使用して、IRT 方式（国際的な学力調査や英語資格・検定試験で採用されているテスト理論）を導入して実施されました。全国の実施日時により、人によって違う問題が出題され、公開問題 10 問と非公開問題 16 問が出題されています。生徒個人への結果は「IRT バンド」という 5 段階で示されます。3 が基準のバンドとなり、5 が最も高いバンドとなります。

全国学力・学習状況調査の概要**生徒アンケートより**

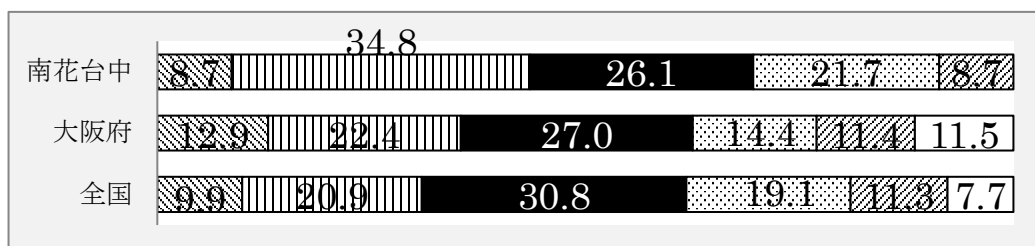
全国や大阪府平均と比較し本校 3 年生の特徴と考えられる項目についてまとめました。

グラフは左から「当てはまる／どちらかと言えば、当てはまる／どちらかと言えば、当てはまらない／当てはまらない」または「そう思う／どちらかと言えば、そう思う／どちらかといえば、そう思わない／そう思わない」の順に表しています。

◆ 1. 将来の夢や目標を持っていますか。

◇ 1. 自分の将来に夢や目標を持ち、自己実現に向けて学習・特別活動・学校行事・部活動などに取り組んでいる生徒が約 8 割という高い数値が出ています。

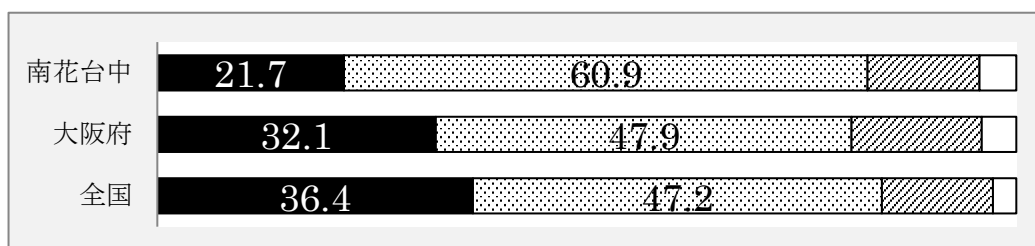
◆2. 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）※グラフは左から3時間以上2時間以上1時間以上30分以上10分以上それ以下になっています。



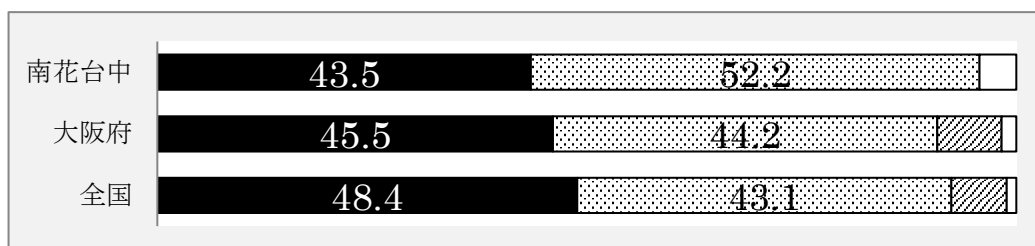
◇2. 平日の学習時間は毎日1時間以上学校以外で勉強をしています。ところが、土日においては極端に学習時間が短くなるという結果が出ていますので、土曜日や日曜日など学校が休みの日の学習計画を立てるようにしましょう。

◆3.1、2年生のときの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。

（4）ICT機器を使い文章を作成することができる。



（7）インターネットを使い情報を収集することができる。



◇3. 本校では学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うことで学習内容を理解することに効果的であり、ICT機器を活用することで協働的な学習を進めるのに「役に立つ」と考え、授業内でPC・タブレットなどのICT機器を使う機会を多く設けています。そのため、文章の作成や情報収集など、自らが学びたいことを調べ、まとめることができる生徒が多くICT機器を効果的に的に使っていることがうかがえます。

◆4. 自分には、よいところがあると思いますか。



◇4. 昨年度に比べて大幅にポイントアップし、100%肯定的な回答でした。

小中一貫教育推進校になり、小学生との縦割り活動等を通して、年少者から頼られることが多くなったことで、自己有用感が高まり、自らを肯定的にとらえることができています。

調査結果を受けて

学校が重点的に取り組んでいくこと

① 「自立した学習者になる」を目標に「つながりあい、学び合う授業」を継続し進めていきます。

- ・グループ学習、ペア学習、協働学習を積極的に取り入れることで自身の成長の実感を高めます。
- ・発表の機会を増やし、成功を体験することで自尊感情を育てます。また、相手に伝える能力を高めたり、相手の意見を尊重する力を伸ばすことでコミュニケーション能力や自己有用感を高めます。
- ・学習態度別指導などを通し一人ひとりを支援し、自らが見通しをもって学習に取り組めるよう課題の与え方を工夫し、達成感を味わえるようにします。

②行事を充実させ、生徒の個々の力を伸ばします。

- ・体育祭や燕祭などの小学校と合同の行事や学年行事で生徒同士が意見を出し合い企画運営をする体験から、自分たちの力でやり遂げたという経験、達成感や誰かのために自分自身が役立っているという自己有用感や自尊感情を高めます。

生徒のみなさんにしっかり取り組んでほしいこと

① 計画的な家庭での学習を継続しよう。

計画的に課題に取り組む続けることは力を伸ばし大きな自信になります。

② 積極的に物事に取り組みましょう。

行事や学習に取り組む姿は十分に力が発揮されています。自分に自信を持ち、一歩前へでる気持ちを持ちましょう。

保護者のみなさまに協力してほしいこと

- ① 家庭学習を計画的に行うよう引き続き支援をお願いします。また子ども達の携帯電話の使用などを規律あるものになるようにしてあげてください。
- ② ご家庭では出来るだけ子どものできたことを評価し、はげますようお願いします。